

令和4年度 後期日程 入学者選抜学力検査問題

歴史学科 歴史 出題意図・ねらい

【ねらい】

歴史学を専攻しようとする受験生に対し、ある特定の地域・時代に関する歴史的事象につき、大局的な観点から論述させることによって、受験生の歴史に対する理解度と要約力、表現力をためすことを目的とする。

【出題意図】

1

律令課役制度を、断片的にではなく体系的に理解できているか確認するとともに、これが機能不全に陥る仕組みを制度そのものの特質と絡めて論理的に説明できる能力を問う。

2

本問は、(1) 戦後冷戦体制下に否応なく取り込まれた日本が、(2) 主にアメリカとの同盟関係を基軸にしつつも、ソ連との国交回復という動きも同時に行って国際社会に復帰したこと、(3) 国内において日米安保反対、反基地闘争、第五福竜丸に端を発した反核運動という市民運動が盛り上がりを見せたことを、時系列的な流れとともに相互に関連付けて論述できているかということを採点基準とした。

3

本問は、6世紀から7世紀前半までの中国の政治的動向をとりあげることにより、①それまで華北を支配していた北魏が漢化政策に反発する軍人の反乱を契機として東魏・北魏に分裂したこと、②東魏は北斉に、西魏は北周に倒されたこと、③北周が北斉を併呑して華北を統一したこと、④しかし、その北周もほどなくして楊堅によって滅ぼされて隋が建国され、さらに隋による陳滅亡によって中国が統一されたこと、⑤即位した楊堅（文帝）が大興城を整備し、さらに均田制や租庸調制、府兵制などによって財政・軍事の基礎を固めたこと、⑥しかし、隋は高句麗遠征を契機として大運河工事などの土木工事、外征による不満によって反乱が起こり、滅亡し、唐が建国されたことなどを述べさせることにより、南北朝から隋による中国統一を経て唐建国に至る政治的過程について正確な理解力と適切な表現力をみることをねらいとした。

4

中世イベリア半島の変遷を、それ以前と以後の歴史を踏まえたうえで、長時間の視点から叙述させる力を試した。とりわけ、高校世界史ではページが離れて記述されている内容を、一続きにつなげて理解しているかどうかを問いたかった。